

# 北信越チャレンジリーグ2021 日程

節	月/日	Match No.	会場	時間	ホーム	vs	アウェイ	主審	副審・4th
1	10/3 (日)	1	福井県 南六呂師サンスポーツランド	13:30	大野FC (福井県)	〔 — — PK〕	アザリー飯田 (長野県)		福井県
		2	石川県 石川県サッカー場(根上)	13:30	テイヘンズFC (石川県)	〔 — — PK〕	エヌスタイル (富山県)		石川県
2	10/10 (日)	3	富山県 岩瀬スポーツ公園サッカー ラグビー場	13:30	エヌスタイル (富山県)	〔 — — PK〕	アザリー飯田 (長野県)		富山県
		4	福井県 奥越ふれあい公園陸上競技場	14:00	大野FC (福井県)	〔 — — PK〕	グランセナ新潟 (新潟県)		福井県
3	10/17 (日)	5	富山県 岩瀬スポーツ公園サッカー ラグビー場	13:30	エヌスタイル (富山県)	〔 — — PK〕	大野FC (福井県)		富山県
		6	新潟県 グランセナスタジアム	15:00	グランセナ新潟 (新潟県)	〔 — — PK〕	テイヘンズFC (石川県)		新潟県
4	10/31 (日)	7	新潟県 グランセナスタジアム	14:00	グランセナ新潟 (新潟県)	〔 — — PK〕	エヌスタイル (富山県)		新潟県
		8	長野県 飯田市総合運動場(松尾)	13:30	アザリー飯田 (長野県)	〔 — — PK〕	テイヘンズFC (石川県)		長野県
5	11/7 (日)	9	長野県 飯田市総合運動場(松尾)	13:30	アザリー飯田 (長野県)	〔 — — PK〕	グランセナ新潟 (新潟県)		長野県
		10	石川県 石川県サッカー場(根上)	13:30	テイヘンズFC (石川県)	〔 — — PK〕	大野FC (福井県)		石川県

※予備日:11/14(日)

# 第44回北信越サッカー県リーグ決勝大会 北信越チャレンジリーグ '2021

主催：（一社）北信越サッカー協会、北信越社会人サッカー連盟  
主管：北信越チャレンジリーグ運営委員会

## 1. リーグの目的

リーグ参加チームは、相互の切磋により北信越各県リーグの水準向上を期し、北信越フットボールリーグに加盟することを目的とする。

## 2. 事務局

各県社会人サッカー連盟が、1年毎の持ち回りで担当する。

2-1 事務局の業務は、連盟細則の1に規定された総務・経理の全ての業務と、競技及び規律フェアプレー部会のうち本リーグに関する全ての業務を行う。

## 3. 運営委員会

3-1 運営委員会に以下の役員を置く。

運営委員長・・・・・・1名

運営委員・・・・・・5名

競技運営委員・・・・・・5名

3-2 運営委員長は、事務局担当県社会人サッカー連盟理事長を選出する。

3-3 運営委員の選出区分は、各県社会人サッカー連盟より各1名とする。

3-4 競技運営委員の選出区分は参加チームより各1名とし、競技運営の責任を持つ。

3-5 運営委員会は、北信越社会人サッカー連盟理事総会（以下理事総会と称す）の決定に基づきリーグ運営を行う。

## 4. 会計

4-1 リーグの運営費は、参加費、補助金その他で支弁する。

4-2 参加費は1チーム50,000円とし、毎年指定された期日までに大会事務局へ納入する。

4-3 会場使用料（ラインスプレー・石灰等の消耗品を含む）は、ホームチームの負担とする。

## 5. 参加チーム数

北信越各県社会人サッカー連盟主催の各県1部リーグで優勝した5チームとする。

## 6. チーム資格

6-1 参加チームは所属各県協会の承認をうけ、リーグ運営を円滑に遂行する能力を有すること。

6-2 理事総会の決定した日程に従って、競技を継続的に行う能力を有すること。

6-3 経営母体を同一とするチームの参加は、再上位チームとする。

6-4 北信越リーグへの参加意思を表明した誓約書を提出のこと。

6-5 県リーグ1位のチームが参加できず、次順位のチームの参加について当該県社会人連盟より書面による申告のあった場合、北信越社会人サッカー連盟常任理事会による審議決定の上、該当チームの参加を認める。

6-6 その他資格について疑義が提出されたときは、北信越社会人サッカー連盟常任理事会で審議決定する。

6-7 チームの監督はC級以上の有資格者が行うこと。

6-8 リーグ開催のための競技場を確保できること。

## 7. 選手資格

7-1 （公財）日本サッカー協会第1種登録加盟団体の選手で、同時に北信越社会人サッカー連盟に登録済のもの。

7-2 外国協会籍であった選手を登録する際は、国際サッカー連盟（FIFA）の定める規約に従い、（公財）日本サッカー協会の承認を得るものとする。

ただし、サッカーを職業としない選手にあっては、所定の手続きにより（公財）日本サッカー協会の承認を得るものとする。

7-3 外国籍選手の登録は5名迄とし、試合開始前のメンバー提出時に登録できる人数は交代予定含め7名迄とし、競技中は3名が出場できる。

- 7-4 資格について疑義が提出されたときは、北信越社会人サッカー連盟常任理事会で審議し、決定する。

## 8. 登 録

- 8-1 参加チームは当連盟規約第6条に規定されたチームで、次の各号の条件を具備しなければならない。
- 8-2 参加申し込みし得る人員は、各チーム役員9名以内・選手30名以内とする。
- 8-3 参加申込みは、毎年指定された期日までに所定の申込書と各リーグ戦成績表を添えて事務局まで送付すること。
- 8-4 登録する選手は、各県リーグ戦最終節までに登録されている選手とし、参加申込書提出後における選手エントリー及び背番号の変更は一切認めない。
- 8-5 登録する選手には番号を附することとし、その番号はユニフォーム背番号と同一のものとする。また、その番号はリーグ登録人数の枠内で、30番以下であることが望ましい。
- 8-6 ユニフォームは（公財）日本サッカー協会の規定に基づき、正副2着を登録・常備する。

## 9. 組合せ及び日程

- 9-1 組合せ及び日程は、北信越社会人サッカー連盟事務局が立案し、理事総会で決定する。
- 9-2 リーグ戦は毎年9月1日より11月30日迄の間に実施される。

## 10. 審 判

- 10-1 主審は1級又は2級審判資格を有するものが行う。ただし、本リーグ戦が（一社）北信越サッカー協会2級審判昇級試験対象試合の場合は、この限りではない。
- 10-2 主審は試合終了後審判報告書を作成し、所属県審判長を経て、（一社）北信越サッカー協会審判長に提出する。
- 10-3 副審と第4の審判員は、県協会登録3級以上の審判資格を有する者が行う。
- 10-4 審判員の交通費は、各県審判委員会の規定に基づき支給する。

## 11. 罰 則

- 11-1 没収試合  
没収されたチームは0点とし、没収時点で相手チームの得点に3点を加える。その後の処置については理事総会の決定に従うものとする。
- 11-2 リーグ戦において警告が2回になった選手は、次の1試合の出場を停止する。
- 11-3 リーグ戦における累積警告の次大会への持ち越しはしない。
- 11-4 リーグ戦において退場を命じられた選手は、次の1試合の出場を停止することとし、最終節で退場となった選手は、それ以降の公式戦1試合の出場を停止する。  
（（公財）日本サッカー協会懲罰規定に準ずる。）
- 11-5 その他、懲罰事項は大会規律フェアプレー委員会の決定に従うものとするが、重要事項で当委員会が、上位委員会の裁定が必要と判断した事項は、（一社）北信越サッカー協会規律フェアプレー委員会の裁定を仰ぎ決定する。

## 12. 試 合

- 12-1 フィールド  
原則として天然芝又は人工芝のフィールドとし、ピッチは105m×68mが望ましい。
- 12-2 形 式  
各チーム1回戦総当り方式で行う。
- 12-3 時 間  
(1) 前半45分、後半45分、計90分ゲームとする。  
(2) ハーフタイムのインターバルは15分とする。（前半終了から後半開始まで）  
(3) 試合終了時点で同点の時は、PK戦により勝敗を決定する。  
尚、PK方式に入る前のインターバルは2分とする。
- 12-4 選手交代  
当該試合にエントリーされた交代予定者最大7名から、5名までが随時交代が認められる。  
（但し、ハーフタイムを除き3回までとする）
- 12-5 順 位  
試合の勝者に3点、PK勝ち2点、PK負け1点、敗者0点が与えられ勝ち点の多い順に順位を決定する。ただし、勝ち点在同一の場合は以下の順位により決定する。  
(1) 全試合のゴールディファレンス（得点－失点）

- (2) 全試合の総得点
- (3) 当該チームの対戦成績
- (4) P K戦のゴールディファレンス (得点-失点)

上記のいずれの方法でも順位が決定しない場合は、北信越社会人サッカー連盟の定める順位決定方法に従う。

- 12-6 本大会はマルチボールシステムを採用する。試合球は北信越社会人サッカー連盟指定の公認球を使用し開催県社会人サッカー連盟に支給する。
- 12-7 ベンチに入ることが出来るのは、試合開始前に氏名の届けられた役員最大6名、交代要員最大7名の計13名までとする。
- 12-8 チャレンジリーグ1位及び2位のチームは北信越フットボールリーグ2部に昇格する権利を得る。

### 13. 試合運営

- 13-1 試合の運営は、開催県の運営委員が一切を統括する。
- 13-2 メンバー表提出  
試合開始90分前までに所定の用紙に記入のうえ5部本部席に提出する。  
(本部・マッチコミッショナー・審判・記録員・対戦チームに各1部)  
なお、1試合のエントリーは、役員最大6名、選手最大18名とする。
- 13-3 試合開始70分前にマッチミーティングを開催する。  
参加者は、当該試合のマッチコミッショナー・審判員・両チーム監督・ホームチーム運営委員とする。  
尚、監督不在の場合はマッチコミッショナーが認めた場合のみ、登録した役員が出席することができる。
- 13-4 試合記録  
(1) ホームチームより記録員2名以上を本部席に派遣し、所定用紙に試合記録を記入する。  
(2) 試合終了後、ホームチーム運営委員は試合記録の確認・署名したのち、主審とマッチコミッショナーにも確認・署名してもらい、公式記録として完成させる。
- 13-5 ホームチームの運営委員は、試合終了後直ちにその結果を事務局まで連絡すること。  
その後所定の書類を事務局へ速やかに郵送する。  
事務局は当日の全試合結果を関連報道機関に報告する。
- 13-6 ホームチームは試合運営に際し、ボールパーソン(6名以上)と担架要員(4名以上)を手配すること。

### 14. 旅費規程

本リーグにおける旅費規程は、北信越社会人サッカー連盟旅費規定の旅費規定に準ずる。

付則1：本運営要項は平成7年2月5日制定。4月1日より施行する。

付則2：平成8年2月4日改正。

付則3：平成9年2月1日改正。

付則4：平成10年2月1日改正。

付則5：平成11年2月1日改正。

付則6：平成12年3月1日改正。

付則7：平成18年3月1日改正。

付則8：平成19年4月1日改正。

付則9：平成21年4月5日改正。

付則10：平成23年4月3日改正。

付則11：平成27年4月1日改正。

付則12：平成28年4月1日改正。

付則12：平成30年4月1日改正。

付則13：平成31年4月1日改正。

付則14：令和2年4月1日改正。

# 第44回北信越サッカー県リーグ決勝大会 運営確認事項

## 北信越チャレンジリーグ '2021

### 1 事務局

新潟県・石川県・富山県・長野県・福井県の順の各県社会人サッカー連盟で、1年毎の持ち回りとする。

本大会の説明会を、当該年度のクラブチームサッカー選手権北信越大会開催期間に行う。

### 2 運営

#### 1. 試合開始前運営

- ・試合4日前までに、MC・審判員・相手チームへ関係書類を送付する。
- ・試合会場のAEDの配置場所をMCと確認すること、また緊急移送、搬送先の病院の連絡先の情報を確認する。
- ・天候情報（気温、湿度、今後の天候情報）を確認すること。飲水タイムやクーリングブレイクを採用するか否かの判断材料になる。（WBGT計測・・・90分前・30分前・HT）
- ・大会プログラムを運営委員は携行し、MC、審判団に1冊ずつ配布できるように準備する。
- ・ゲームピッチ作成はピッチインスペクション前までには終えること。
- ・選手証、監督証は必ず携行すること。

#### 2. 試合開始時刻

- ・試合開始時刻は13時30分開始を原則とする。但し、試合会場借用等の関係で変更となる時もある。

#### 3. マッチミーティングの実施

- ・原則としてチームの監督が出席とするが、今年度に限りチームを代表する責任者でも可能とする。
- ・マッチコーディネーションミーティング（以下MCM）ではチームの運営委員が進行役となり試合のタイムスケジュールなどの打合せ等確認すること。感染症対策としてピッチ上で行う。
- ・設定されたタイムスケジュールは時間厳守すること。  
（MCM終了時に電波時計で時計合わせをする）
- ・ユニフォームの正・副を持参し、着用ユニフォームを決定する。

#### 4. マルチボールシステムの採用

ボールは参加チームに8個支給される。（各チームへモルテンより直接配送されます）

**各試合、新球1個+6個 計7個用意する。**

#### 5. テクニカルエリアの設置について

- ・本大会はこれを設置し、ここで指示を出せる人は1人とする。

#### 6. 担架の用意

- ・ホームチームが担架2台と、担架要員（ビブス着用）もホームチームが用意する。（4名～6名）

#### 7. ボールパーソン（ビブス着用）の用意

- ・ホームチームが、中学生以上を6名以上を手配する。

#### 8. メンバー用紙

- ・事務局より配布したものを使用する。
- ・登録されたメンバー・背番号・位置及び体温を書き込み、先発11名と交代選手7名がわかるように○印をつける。
- ・登録された選手が18名を超える場合は、ベンチ外に○印をつける。
- ・試合開始90分前までにメンバー用紙（5枚）・電子選手登録証（写真付）をまとめた出力紙を提出し、本部にてチェックを受ける。
- ・電子選手登録証によりチェックを実施するが、顔のチェックは行わない。
- ・プログラムにミスがある時は選手証を正として扱う。選手証の記載にミスがある時は、該当選手は試合に出場することが出来ない。

### 3 各記録用紙

所定（代表者会議時配布）の各種用紙を使用する。

#### 1. 試合記録用紙

- ・ホームチームより記録員2名以上を本部席に派遣し、所定用紙に試合記録を記入する。
- ・ホームチーム運営責任者は、試合記録を確認・署名したのち、主審とマッチコミッショナー

にも確認・署名を依頼し、公式記録として完成させる。

## 2. マッチコミッショナー報告書・マッチコミッショナー緊急報告書・メモ用紙

- ・ホームチームは、当該試合のマッチコミッショナーに渡す。
- ・マッチは、記入後の報告書を試合当日に運営委員に渡す。渡すことが出来なかった場合、**24時間以内に事務局あてに投函**する。(メールでの提出も可)
- ・マッチコミッショナー緊急報告書は、報告事項があった場合マッチが記入し、ホームチームに提出する。

## 3. 審判報告書・重要事項報告書

- ・ホームチームは、当該試合の主審に書類を渡す。主審は審判報告書を記入後、ホームチームに提出する。
- ・重要事項報告書は、報告事項があった場合主審が記入し、ホームチームに提出する。

## 4 試合後の処理

### 1. 公式記録

- ・試合記録を完成させて、主審、MCに記録確認していただき署名していただき公式試合記録を完成させる。

### 2. 試合結果の報告

- ・試合結果は、ホームチームが試合終了後、所定の試合結果報告書に必要事項を記入し、速やかに事務局へFAXする。尚、各県の報道機関へは事務局より連絡します。
- ・ホームチームは、試合ごとに下記の報告書類が全て揃いましたら、速やかに事務局へ郵送ください。

- 公式記録
- 審判報告書
- 重要事項報告書 (報告があった場合)
- マッチコミッショナー報告書
- マッチコミッショナー緊急報告書 (報告があった場合)

### 3. 退場者が出た場合

- ・本大会要項の11-4を遵守する。
- ・試合終了後、試合当日のうちに下記の書類をFAXすること。送信先は、マッチコミッショナー緊急報告書及びFAX送信状に記載されています。
- 重要事項報告書
- マッチコミッショナー緊急報告書

## 5 経費

### 1. 審判員、マッチコミッショナー (以下MC) の手当は北信越社会人サッカー連盟より支弁します。

(各県ホームゲーム運営が2試合ずつ開催)  
支給金額は 38,000円 (1試合:19,000円×2)  
(MC、主審が各5,000円、副審2名、第4審判が各3,000円)

### 2. ホームチームが、運営に係る全ての経費の支払い処理を行う。

### 3. 試合終了後、審判及びマッチコミッショナーに手当を手渡し、経費報告書に住所と氏名を署名・捺印してもらう。

### 4. 会場使用料、設営費用はホームチームの負担費用となります。

### 5. 審判員の交通費については各県による。

## 6 選手および家族も含めたチーム関係者に疑い例が出た場合の対応

37.5℃以上の発熱が確認された場合、当該選手は症状が確認された日から7日間、練習・試合等の活動を取り止め、経過観察を行うこと。ただしPCR 検査を行ったうえで陰性と判断された場合は、練習・試合等の活動を許可するものとする。

## 7 新型コロナウイルスが関係する没収試合について

新型コロナウイルス感染症関係で参加チームから試合中止の事前申請があった場合は没収試合とし、没収されたチームは得点及び勝点は0とし、没収時点で相手チームの得点に2点を加え、勝ち点は3点を与える。

なお、試合開催県の試合開催が不可能となった場合については両チーム引き分けとし、得点は0点、勝ち点は1点をそれぞれ与えるものとする。

## 8 試合

個のチームにおいて没収試合等が発生し実施試合数が3未満となったチームは、北信越フットボールリーグ2部に昇格する権利が消滅する。

# 試合遠征ガイドライン（新型コロナウイルス感染症対応）

2020年8月20日 北信越社会人サッカー連盟

## 目的

このガイドラインは地域大会、全国大会など他県への移動を伴う試合において、新型コロナウイルス感染症に対して注意喚起を促すとともに、チームでの感染対策の一考になるように提案するものである。（これが新型コロナウイルスの罹患を完全に防げるものではない。）

## 1. 遠征先の移動手段について

### 【航空機・新幹線】

- ・航空機内は、空気が約3分ですべて入れ替わる換気のよい空間とされ、また当面、機内での距離をとった運用になるとされている。

#### 【参考】日本航空の感染症対策の取り組み

<https://www.jal.co.jp/ja/info/2020/other/flysafe/>

全日本空輸の感染症対策の取り組み

<https://www.ana.co.jp/ja/jp/topics/coronavirus-travel-information/initiative/>

- ・新幹線・特急車両・通勤車両内は、6分～8分ですべての空気が入れ替わる。

#### 【参考】JR西日本の取り組み（JR東日本なども同様）

[https://www.westjr.co.jp/info/corona\\_taisaku.html](https://www.westjr.co.jp/info/corona_taisaku.html)

## 2. バスによる長距離移動

- ・バス会社への事前の依頼事項

- ① 事前の車内消毒
- ② 運転手の体調管理。マスク、手袋着用

- ・バス車内での社会的距離

- ① 欧州ではバス内の人数を減らすため、複数台での移動を義務づけています（1台25人まで等）。とくにバス移動が長時間（2時間以上等）にわたる場合、ご検討ください

- ・その他の注意事項

- ① バス内ではマスクを着用します
- ② 窓を開けて、換気します。1時間につき3回の換気が推奨されます
- ③ サービスエリア等での休憩時もマスクを着用し、感染予防に資する行動をとってください

## 3. チームの宿泊について

### 【宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らすよう、工夫してください】

- ・施設単位またはフロア単位での貸し切りを検討してください
- ・チーム専用の入り口、動線、エレベーター等を設置できないか、検討してください
- ① 動線（共用の廊下やロビー等）、エレベーターについては、時間を指定することでの“専有化”も検討
- ・食事会場はチーム専用としてください
- ・チームが使用する部屋は事前に消毒、換気します（宿泊施設への依頼）
- ・連泊する場合の客室の清掃
- ① チームの不在時に清掃します。または、清掃しないことも選択肢となります

### 【手指消毒液の設置】

- ・チームが訪れる各所に手指消毒液を設置してください
- ① 食事会場
- ② マッサージルーム
- ③ ミーティングルーム
- ④ 廊下（フロア等を専有する場合）
- ④ その他

### 【チームの行動規範】

- ・自室以外ではマスクを着用します
- ・エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにします
- ・ホテルのサウナ、フィットネスルーム、バー等に立ち入らないようにします

### 【部屋割り】

- ・原則、一人一部屋とし、部屋間の往来を禁止します
- ・部屋の換気を良くしてください。温度21度、湿度50～60%が推奨されます

### 【マッサージルーム】

- ・室内を混雑させないように留意します。また換気を良くしてください
- ・順番が来るまで室内に立ち入らないようにします
- ・マスク、手袋等を用いて、感染を予防してください
- ・トレーナーは、マスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとったうえで対応します
- ① 手袋の手配が難しい場合等、1行為1手洗い（アルコールジェルでの刷り込み含む）をしっかりと行います

### 【食 事】

- ・選手の席は1.5～2mの距離をあけてください。向かい合わせの配席は不可です
- ① 十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらします
- ・食事は一人ずつ取り分けた状態で用意します
- ① 食事中、宿泊施設の方は部屋にいないようにします。片付けはチームが退出したあとに行います
- ・ビュッフェ形式は、個人専用トングを用い大皿に唾液が飛ぶような会話などないように留意する等の場合に限り、許容されます

### 【ミーティング】

- ・可能な限り、ビデオ会議（バーチャル/ミーティング）をご検討ください
- ・リアルで実施する場合、部屋の換気に留意してください。監督、コーチ、選手が1.5～2mの距離をとって着席してください



# 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

2021.9.20作成 北信越社会人サッカー連盟

## 1. はじめに

- ・本ガイドラインは第44回北信越サッカー県リーグ決勝大会（北信越チャレンジリーグ2021）の開催にあたり、関係者のすべてが健康のもとに成り立つことを認識し、常に感染防止と自己管理に努め、安全な大会運営を行うことを目的として作成された指針である。

## 2. 選手および組織に求められる感染予防対策

- (1) 毎日の健康チェックと行動記録
- (2) 手指衛生の励行
- (3) 出来るだけ人ごみを避ける
- (4) 施設の空調・換気状態の把握と可能な対策
- (5) ロッカー室・シャワー室、ベンチなどでの濃厚接触の回避
- (6) ロッカー室・シャワー室、ベンチ、トイレなどにおける環境消毒
- (7) 選手、チーム関係者、家族に対する教育・啓発と意識改革
- (8) 大会関係者全体での情報共有体制
- (9) チーム連携医療の選定と連携体制の確認

## 3. 会場運営に対する感染予防策

- ①試合観戦者の上限は、特に限定はしない。ただし、施設管理者が独自に基準を設けている場合はそれに従うこと。
  - ・観客を入れる場合は、入退出口を限定し、消毒液の配置、検温チェック、マスクをさせる。（乳幼児においてマスクは不要）
  - ・メディア関係者が入る場合は、ホームチーム運営委員は、体温チェック、健康チェック、手毒を実施させ、識別するためにビブスなどを用意し、着用させること。
  - ・来賓者の入場においても、ホームチーム運営委員は、体温チェック、健康チェック、手指消毒を実施させること。
  - ・無観客で実施する場合は、入場口を閉鎖し、無観客試合であることを表示・掲示すること。（対戦チームにも伝えておく）
- ②スタジアムのゾーン分けをすることで感染リスクを抑え、感染者が出た場合の影響範囲を限定する。とくに選手、チームスタッフと接触する人数を最小化する
- ③競技関係者、運営・メディア関係者、来場者のゾーン分けを行い、お互いの接触を避ける動線管理を行う
- ④マスクを着用する
- ⑤手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ⑥会場入口に消毒液を設置する
- ⑦ドアはできるだけ開けたままとする。（ドアノブに触れる頻度を下げするため）
- ⑧入場前に体温を測定し、37.5度以上の場合、入場をお断りする
- ⑨過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合、入場をお断りする。
- ⑩待機列が「密」にならないよう工夫する
- ⑪飲食・グッズの販売・当日券販売は容認される。アルコール販売は容認されるが、提供有無や提供方法は主管クラブが判断する。提供の際は、応援マナーの遵守の呼びかけを強化する。

## 4. サッカー観戦の観客に対する感染予防策

- ①発熱、咳、倦怠感、咽頭痛などがみられる場合には観戦をご遠慮いただく（心臓、肺などに基礎疾患がある場合も同様）自分を守るだけでなく、多くの仲間、選手を守ることを理解の徹底
- ②入場時・退場時の濃厚接触を減らすための工夫（ゾーニングなど）待機列が「密」にならないよう工夫する
- ③入場時に体温を測定し、37.5度以上の場合、入場をお断りする
- ④過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合入場をお断りする。
- ⑤非接触型温度測定器、サーモメーター等を利用したスタジアム入場時の体温チェック（37.5℃以上）
- ⑥スタジアムではマスクを着用する。熱中症対策でマスクを外す場合は、社会的距離（できるだけ2m、最低1m、咳エチケットに十分配慮する）を確保する。
- ⑦スタジアム内でのマスク着用の呼びかけ
- ⑧観戦時の濃厚接触を減らす工夫として、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保し、1席空けて座る手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ⑩ファンから手渡されたペン、色紙、ボールなどでのサインを行うファンサービス、ハイタッチなどを行わない
- ⑪応援について
  - (1) 容認される行為は以下の通りです
    - （例）拍手・手拍子
    - （例）タオルマフラー・ゲートフラッグなどを掲げる
    - （例）太鼓、応援ハリセン等、自席で叩ける鳴り物の使用は、主管クラブが使用可否を判断する。
      - ・ただし、メガホンの使用は除く。また、スタジアム備品を叩く行為は厳に慎むなお適用にあたっては、ホームとビジターは同条件で適用する
      - ・使用場所など、適用の詳細は主管クラブの試合運営ルールに従う
  - (2) 禁止される行為は以下の通りです
    - 声を出す応援
      - （例）指笛・チャント・ブーイング
      - （例）トラメガ・メガホン・トランペットなど道具・楽器を使うこと
    - 人と接触する応援
      - （例）ハイタッチ・肩組みなど「密」を作る応援
      - （例）お客様がいる席でのビッグフラッグ※ただし、お客様がいない席に掲出する場合は容認される
      - （例）大旗を含むフラッグを振る
      - （例）タオルマフラーを振る、もしくは回す

## 5. チーム選手、審判員、試合運営に対する感染予防対策

- (1) チーム及び審判員全員の求められること
  - ①無理な来場は、勇気をもって、見合わせる
  - ②体調がよくない場合（例:発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
  - ③同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ④握手、抱擁などは行わない
  - ⑤マスクを着用する（アップ中またはプレー中を除く）
  - ⑥手洗い、手指消毒をこまめに行う
- (2) 試合当日の体温測定
  - ①チーム責任者は、試合当日、選手及びスタッフの体温を測定し、健康チェックシートの記録用紙に記録し、チームで管理する。
    - 健康チェックシートについては、全日程が終了するまで各チームで保管する事
  - ②ホームチーム責任者は、審判員、試合関係者の体温を測定し、健康状態を確認しておくこと、記録用紙（書式は自由）については、全日程が終了するまでホームチームで保管すること

- ③選手及びスタッフは試合前 2 週間における健康状態の確認と検温を行うこと 記録用紙の様式は（参考添付:健康チェックシート）各チームで様式が既に決まっている場合はそれを利用して構わない 記録用紙については、事務局に提出を求めるものではないが、感染者またはその疑いがあった場合に保健所等に提供することがある。記録用紙は全日程が終了するまでチームで保管すること

### (3) 更衣室

- ①更衣室内でも社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保する
- ②更衣室内では、必ずマスクを着用する
- ③シャワーは、一つずつ間隔を空けて使用することを原則とする。人数が多いときは時間をずらして使用することで、人と人の間隔（できるだけ2m、最低1m）を確保する。
- ④更衣室の滞在時間を、できるだけ減らす
- ⑤タオル、飲水ボトル等を共用しない
- ⑥会場によってはチームの控室のセキュリティが担保されない場合があり、その場合は、チームベンチ後方、又はベンチ内の持ち込みは容認される。

### (4) 試合前のマッチコーディネーションミーティング

- ①社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保する
- ②会場の換気に留意する
- ③時間短縮に努める（ユニフォームの事前決定）
- ④参加人数を制限して行うこと（5名程度）  
参加者は、マッチコミッショナー、主審、両チーム監督、ホームチーム担当者を原則とする

### (5) 選手および審判団のピッチ入場～キックオフ

- ①両チーム選手及び審判団は整列の上、一緒に入場する
- ②入場前は社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つよう十分配慮する
- ③ピッチ上で整列し会場のみ挨拶を行い、相手選手及び審判への挨拶、握手等は行わない
- ④リスペクト旗、クラブ旗、エスコートキッズは入場動線を選手と別にするなど密を避ける工夫をすること、およびピッチ上で選手と社会的距離を取れていれば実施することは容認される
- ⑤ピッチ周辺での来賓、スポンサーのセレモニーについては、演出時に社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つスポンサー関係者が参加することは妨げない
- ⑥チームの集合写真撮影は認められる。但し、掛け声、肩を組むことは禁止とし、隣や前後の選手同士がぶつからないよう注意する。
- ⑦ピッチ上で円陣を組むことは行わない
- ⑧得点時にハイタッチ、抱擁などは行わない

### (6) チームベンチ

- ①密にならないように工夫する（可能な限り、1席空けて配列するなど）
- ②入り切らない場合は、ベンチを増やして対応。または、主審および両チームで事前に合意した場所で待機
- ③ベンチの選手およびチームスタッフは、マスクを着用する。但し、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい
- ④不要な会話・接触は控える
- ⑤飲水ボトルの共用は避ける

### (7) ハーフタイム

- ①選手、チームスタッフ、審判員等の引き上げ動線が混雑しないよう、予め確認する

### (8) 試合終了時のセレモニー

- ①チームおよび審判団はピッチ中央に集まり挨拶を行う。但し、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つよう十分配慮する。その場合、握手は行わない
- ②本部ベンチ、両チームベンチへの挨拶は行わない
- ③チームとして集まってファン・サポーターに挨拶する等を行う場合、社会的距離を確保すること。握手、ハイタッチ、抱擁は行わない
- ④試合終了後（試合前）のセレモニー、イベント等は容認するが、開催有無、開催方法は主管クラブが判断する

(9) 試合終了後の取材

- ①監督及び選手の取材は社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つよう十分配慮する
- ②マスクを着用する
- ③取材の対応は短時間で行う

## 6.選手および家族も含めたチーム関係者に疑い例が出た場合の対応

- (1) 医療機関に報告
  - ・医療機関への連絡
- (2) 各地域の医療機関のアドバイスにもとづく濃厚接触者の洗い出し
  - ・濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理
- (3) PCR検査および医療機関受診対象者の確認
  - ・健康チェック表、自覚症状を確認の上、PCR検査検体の採取
- (4) チーム運営委員は大会事務局に状況を報告すること
- (5) 事務局は状況を確認したうえで、北信越社会人連盟と今後の対応を協議すること
- (6) 37.5℃以上の発熱が確認された場合、当該選手は症状が確認された日から7日間、練習・試合等の活動を取り止め経過観察を行うこと。ただしPCR検査を行ったうえで陰性と判断された場合は、練習・試合等の活動を許可するものとする。

## 7.選手および家族も含めたチーム関係者にPCR検査の結果、陽性反応が出た場合の対応

- (1) 医療機関に相談する
  - ・濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理
- (2) 医療機関受診の対象者の確認
  - ・健康チェック表、自覚症状を確認の上、医療機関受診対象者の確認
- (3) 陽性反応だった本人は入院もしくは自宅療養。濃厚接触者も自宅待機
  - ・その他の選手やチーム関係者は原則、チームの動きに従い、チームは予定どおりに試合・練習をする。チーム全体の活動はこの時点では停止しないが、検温等の健康チェックをより厳正に実施する
- (4) チーム運営委員は大会事務局に状況を報告すること
- (5) 事務局は状況を確認したうえで、北信越社会人連盟と今後の対応を協議すること

## 8.選手およびのチーム関係者以外の関係者から疑い例、陽性判定が出た場合の対応

- (1) 濃厚接触者の洗い出し
  - ・行政との連絡調整も検討
- (2) 濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理
- (3) チーム運営委員は大会事務局に状況を報告すること
- (4) 事務局は状況を確認したうえで、北信越社会人連盟と今後の対応を協議すること